

(1) 切り絵との出会いほか

1948年、静岡県のお榛原町に誕生。幼い頃から父親の教育方針で、既製のおもちゃより手創りすることに興味をもち、板切れや紙を細工しながら遊ぶことが多かった。当時から絵を描くことや、ハサミやナイフで紙を切ることが好きで、厚紙をおもちゃ代わりに遊んでいた記憶がある。

学生時代に沖縄を旅行した時、フェリーから見た夕日に輝く波と、漁船のシルエットの美しさに魅了され、ペンと墨汁で影絵風の絵を描きはじめた。切り絵に出会ったのもこの頃で、自分に合った表現方法として独学を重ねてきた。

1985年頃から近所の人々の要望で切り絵教室を開催するようになり、この経験が自分の技量アップにつながったと考えている。

1992年からは、東海市の市民文化祭に作品を出品するようになり、1995年に工芸の部では初となる「市長賞」を受賞する。

切り絵が外国人に喜ばれることから、東海市の国際交流協会を設立する際に、シンボルマークや会報のデザイン担当として参加するようになり、やがて、作品を目にした中国人留学生の要請を受けて、1997年に中国の湖南省長沙市で50作品による個展を開催することとなる。

切絵人 (キリエスト) 桜井敏彦の紹介

(2) 今までの主な活動

長沙市内での個展開催後、今度は北京での個展に誘いがあり、関係者から作品の評価は得たが、画歴面での経験不足から会場等の支援が得にくいとのことで、しばらく実績づくりを優先したらとのアドバイスを受けて、自分の作品がどのような評価を受けるのか知る意味でも、いくつかのコンクールへの出品や、全国規模の同好会へ参加するようになった。

幸運にも恵まれ、コンクールでの入選、入賞を重ねるうち、切り絵作家協会への加盟を許され、新聞や本などへの掲載作品を手がけるようになる。2004年には「日本の小京都シリーズ」に広島県の竹原市、尾道市と愛知県の西尾市を担当し、現在は「日本の洋館シリーズ」に中部地方にある重要文化財指定の5館を担当している。

東海市の国際交流協会活動に関連するものとして、既刊会報68号すべての表紙を市内の風景で飾り、また市内在住の外国人向けの生活ガイドブックなどのデザインも担当し、同協会のシンボルイメージを確立しつつある。

切絵人（キリエスト） 桜井敏彦の紹介

(3) 作品について

自然が大好きで、動物や植物を観察する目で見てしまうためか、作品は写実的なものになることが多い。自分にしてみれば長所でもあり、短所でもあると考えているが、作風を変えるにはまだしばらく時間がかかりそうで、当面は見たものを正確に紙に切り写す今の路線で行こうと考えている。

おかげさまでコンクールに出品される数百点におよぶ作品の中でも、作風だけで作者が判るようで、繊細さでは日本で三本の指に数えられ、切り出す線の細さでは他に例がなく、また線の表現方法でも他者に真似のできない技術をもっているなどとの評価を受けている。

作品の多くは、花をモチーフにしたもの、鳥や昆虫などを描いたもののほか、観光地や寺院・仏閣などから題材を得ている。特に花は山野草を好み、その多くは自分の家の庭で栽培して咲かせたものである。蝶などの昆虫類は持っている標本を参考にするため、精密な描写になることが多い。

「細かくて、切り過ぎによる失敗はないか？」との質問をよく受けるが、線を切り落すような失敗はほとんどなく、切り絵の命といえる「白黒のバランス」がとれない失敗作は数え切れない。つまり、切り過ぎではなく、切り方が少ないため全体が黒過ぎて失敗するのである。この点では未だ満足できる作品はないとも言える。

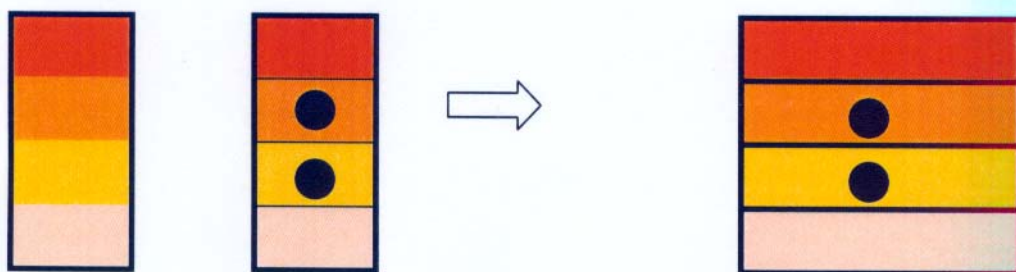
切絵人 (キリエスト) 桜井敏彦の紹介

(4) 「和紙と遊ぶ」とは

作品の多くは、和紙を材料にしている。当初は色画用紙や、艶紙 (つやがみ) という洋紙を使っていたが、和紙のもつ独特の素材感、染色感が自分の感性とマッチしたため、その後は和紙を使っている。

彩色作品には多くの染色された和紙を使うが、ふと気がついた時、和紙に囲まれ、和紙と遊んでいる自分がいることを知った。こうなったら、一生「和紙と遊ぶ」をテーマにしてみようと決めて取り組んでいる。

彩色の際にも自分なりのルールを決め、グラデーションを表現するにも、できるだけ単色の重ねにより、グラデーションで染め上げた紙は使わないことを基本としている。また、単色紙同士の重ねによる表現もしないことにして、すべての色は黒の線で囲まれているように決め、且つ違和感が出ないように自ら高いハードルを課している。



また、モノクロの作品でも全てのパーツを一枚にするため、特別な表現以外は切り貼りをしないこととしている。

(5) 最近の活動

切り絵の同好会、作家協会は技術、芸術性のアップを目指すことは勿論、切り絵の普及にも尽力している。そんな本部の意向を受けて作品の紹介や、切り絵教室の開催などを通して少しでも多くの人に切り絵を知ってもらおうと努めている。

一昨年からは、名古屋市、東海市を中心として「なごやか切り絵同好会」を結成し、月1度の教室を開催している。また、作品展示の要望も多く、2002年からは東海市内の郵便局での6回に亘る作品展ほか、2004年秋には名古屋市内2箇所で開催、さらに私設の美術館などへの出品や個展を開催してきた。

東海市が派遣したオーストラリアへの使節団にも参加し、当地での切り絵紹介や実演を行い、現地の芸術家たちとの交流も深め、作品2点を町の画廊に寄付し、現在展示している。

数回の個展を通して、作品展に来場してくれた人たちからは「紙を切っているとは思えない」とか「版画ではないか」との声も多く、始めて見る切り絵に驚いたり「今まで見てきた切り絵の概念が大きく変わった」と評価される。

美術館関係者などからも「会場に入ると迫力に圧倒されて息が詰まるし、出る時には深い溜め息をついていく人の気持ちがよく分る」とのありがたい評を頂けた。

画 歴

桜井敏彦（さくらいとしひこ）

- 1948年 静岡県榛原郡榛原町に生まれる
幼い頃から絵を描くのが好きで、手先が器用なのは祖父の血筋といわれ特に細かい作業は得意だった。ハサミやカッター、彫刻刀を使って紙を切ったり、竹や木端細工などに親しんできた
- 1974年 一枚の切り絵に出会い独学を開始
学生時代に大学の事務所の壁に掛かっていた1枚の切り絵を見たときから自分もやってみたくなり、独学を始めた
- 1980年 県営荒尾団地内で切り絵クラブを結成
東海市荒尾町の県営団地に入居時代、同じ団地内の数人からの要請を受け切り絵クラブを結成。月に一度の勉強会を開催する
- 1982年 児童福祉会館、平洲小学校母親クラブの要請を受け、講習会を開催
- 1992年 東海市文化祭に「秋叢」を初出展
東海市の文化祭に自宅庭の秋の草花を描いた作品を出展する
- 1993年 東海市文化祭に「秋・サンフランシスコ」を出展
サンフランシスコのゴールデンゲイトブリッジを描く
- 1994年 東海市国際交流協会の会報誌表紙デザインを担当
・切り絵が外国人に喜ばれることから、会報誌のデザインとして利用することを提言、創刊号以後表紙デザインを担当する
・外国人向け生活ガイドブックの作成にあたり、カットを担当
・協会のシンボルマークデザインを担当
・東海市文化祭に松本市旧制松本高校学内をスケッチした「県の森」を出展
- 1995年 東海市文化祭「工芸の部」にて市長賞受賞
・東海市加木屋町の普濟寺をテーマにした「秋・山門」でこの年から新設された工芸の部にて初の『東海市長賞』を受賞
- 1996年 東海市文化祭に「叢春」を出展
・市長賞を受賞したことにより以後の出展は賛助出展となる。作品は自宅庭に咲く約30種の春の野草を描いた
・東海市民病院の依頼で病院に「市民病院正門」を寄贈する
- 1997年 中国湖南省長沙市で個展『日本的剪紙芸術展』を開催
・日中国交回復二十五周年記念行事の一環として長沙市より招待をうけ、作品50点をもって百貨店『北斗星』にて個展を開催する
・東海市文化祭に湖南省長沙市内の湖南師範大学学舎を描いた「汲泉本」を出展する
- 1998年 しあわせ村にて東海市国際交流協会の原画展開催
・協会5周年記念事業の一環として作品を展示する
・加木屋中学校にて切り絵講習会(8/21)を開催する
・東海市文化祭に馬箆を描いた「仙道の宿」を出展する

- 1999年 「第3回全国切り絵はがきコンクール」に入賞
 ・全国切り絵作家協会主催のコンクールに2点を出品、「三龍草」が『京橋郵便局協力連合会会長賞』を受賞
 ・石田学園の依頼を受け「星城高校」のポストカードを作成する
 ・東海市文化祭に「灼熱のボマ」を出品する
- 2000年 ・半田市主催「ふるさと再発見絵画展」に入賞
 「樹精なお」が『特別賞』受賞。半田市亀崎町の真宗大谷派浄願寺境内にある白神と化した御神木は枯れてもなお大地に立ち続ける樹の精を宿っている
 ・呉竹主催「花の絵手紙コンクール」に入賞
 第3回呉竹絵手紙コンテストで「ほたるこい」が『特選』を受賞
 ・「名古屋名徳短期大学」「星城中学」「明英予備校」「星の幼稚園」のポストカード4種を作成する
 ・第9回全国切り絵コンクールに「陽春のまどろみ」が入選する。
 ・第4回全国切り絵はがきコンクールにて「賀・新世紀」が『京橋郵便局連合会会長賞受賞』を受賞するほか「阿呆たちの夏」「信楽の顔」が入選する
 ・東海市文化祭に「蝉時雨」を出品する
- 2001年 ・3/5～11の間福岡アクロスにて「陽春のまどろみ」が展示される
 ・「第10回全国切り絵コンクール」に入選
 北京市郊外の万里の長城を描いた「臥龍長城」が入選する。
 ・第5回切り絵はがきコンクールにて「枯葉舞う頃」が『東京切り絵同好会会長賞』、「落し文見つけた」「干支・午」が『全国切り絵作家協会会長賞』を受賞、「松本城遠望」「風になる瞬間」「二胡を奏でる娘」が入選
 ・東海市文化祭に「落ち葉の季節」を出品する
- 2002年 ・5/21～26の間埼玉県東松山市にて「臥龍長城」が展示される
 ・「第11回全国切り絵コンクール」に入賞
 コンクール初のカラー作品募集で「鬼たちの宴」が『東京切り絵同好会会長賞』を受賞する。モノクロ部門で「尾張横須賀まつり大どんでん」が入選する
 ・JCCポスター(日本コリー犬クラブ)を本部に寄贈する
 ・第6回「全国切り絵はがきコンクール」で「今年も楽しく釣りました」が『全国切り絵同好会会長賞』を「親子猿・未来へ」「風をとらえて」が『審査員特別賞』を受賞する。「仙道の宿・たじみや」「見つめあう羊」「猩々袴」「友人の微笑み」「さんご礁」が入選する
 ・東海市文化祭に「枯れ葉の季節」を出品する
- 2003年 ・東海市北郵便局にて『切り絵はがき展』『ぶらり一人旅展』を開催
 切り絵はがきコンクール入選作品ほか17点を展示する
 「仙道の宿」「秋雨の大仏殿」など14点を展示する
 ・全国切り絵同好会より『講師』の資格認定を受ける
 ・西春日井郡新川町『ギャラリー桐子』にて作品展示
 桐木端展として桐板に貼った「般若心経」「さがり藤」を出品する
 ・5/26～6/1 東松山市で「鬼たちの宴」「尾張横須賀まつり大どんでん」展示
 ・「第12回全国切り絵コンクール」に入賞
 カラー作品部門で「智慧波羅密」が入賞、モノクロ部門で「うしとら神社の御神木」が入選する
 ・名古屋中央郵便局駅前分室にて2日間切り絵教室を開催
 参加者18名にて『なごやか切り絵同好会』を発足し、顧問となる
 ・第7回『全国切り絵はがきコンクール』で大賞受賞
 干支の「酉」で大賞を受賞。「夕焼け時」「ガンジスの夕暮れ」「mamシグサ」「最近はこれにこってます」が入選する
 ・東海市北郵便局にて『小細工展』を開催
 般若面の凧、花のブローチ、葉脈紙を活かした作品等55作品を展示

- 2004年
- ・東海市北郵便局にて『きさらぎ展』を開催
 - ・東海市北郵便局にて『6月展』を開催
 - ・伊香保で開催の『東西作家展』に8作品を出展
5～7月に開催された『伊香保切り絵美術館』の作品展に「現代の大八車」「下がり藤」「叢春」「水車の回る庭」ほかを出展
 - ・交通新聞の『日本の小京都シリーズ』に作品掲載
西尾市内の「久麻久神社」、尾道市内の「木漏れ日の石畳」、竹原市内の「旧松阪邸」が掲載される
 - ・全国切り絵作家協会主催『全国切り絵作家協会展』に5点を出展
5～7月に開催された『日本切り絵百景館』の作品展に「馬籠を散策く」「白川郷に行く」「秋雨の大仏殿」ほかを出展
 - ・「第13回全国切り絵コンクール」に入選
 - ・第8回『全国切り絵はがきコンクール』に入賞
アポロジニーをモチーフとした「先住狩猟見族」が『審査員特別賞』を受賞、干支の「賀・犬」が佳作に入選
 - ・『なごやか切り絵同好会』の池田会長夫妻、中山正子さんの3名が入選を果たす
 - ・名古屋市東区代官町の「町の縁側MOMO」にて個展開催 10/21～29
 - ・東海北郵便局にて『2004年霜月展』を開催(11/1～15)
 - ・名古屋市東区主税町の展示館「武家屋敷長屋門」にて個展開催 11/3
 - ・東海市文化祭に「裏庭のある風景(プライストウ農場)」を賛助出展
- 2005年
- ・東海市聚楽園大仏ほか8作品にて切り絵はがき作成
 - ・愛知県知多市岡田町の「ちっちゃな美術館ミュゼ」にて個展、初の即売会開催
 - ・岐阜県大垣市内の大垣共立銀行展示場にて個展開催(88点)
 - ・「第14回全国切り絵コンクール」に入選
 - ・2005愛知万博フレンドシップ事業「フィルムコンテスト」作品に出演
 - ・第3回切り絵同好会個人会員展に2作品を出品
 - ・第9回『全国切り絵はがきコンクール』に入選
 - ・東海市2005秋まつりに「奉迎御神木祭」を賛助出展



「まどろみ」 聚楽園の大仏・愛知県東海市
一九九七年一月 280×105

和紙と遊ぶ 切絵人 桜井敏彦

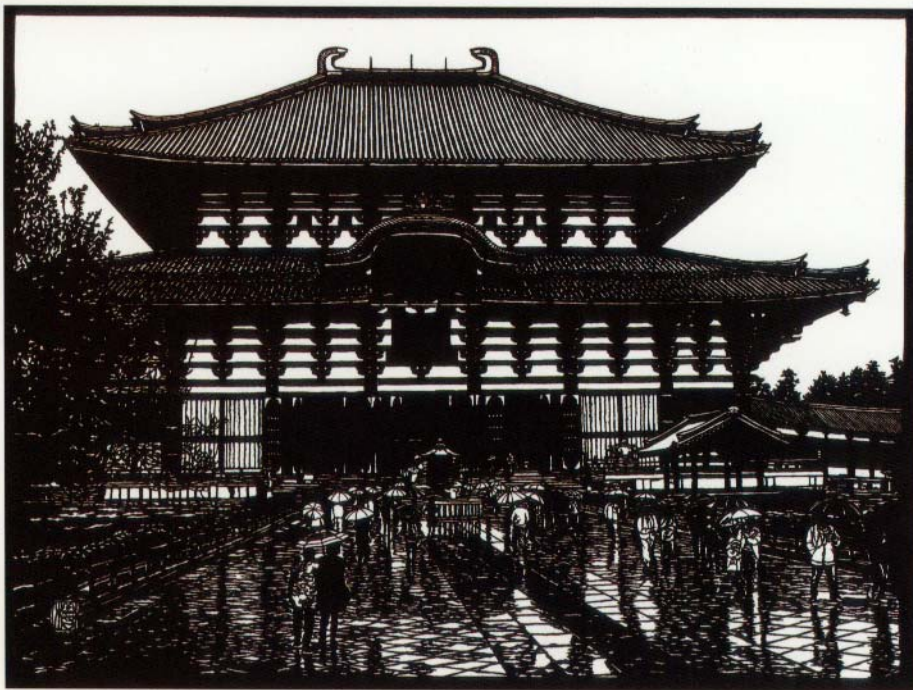


「紅茶のひとときをいかが?」 旧桐華学園本部・愛知県半田市
二〇〇四年九月 390×285
和紙と遊ぶ 切絵人 桜井敏彦



「順海町の麓小路へ」 日本の小京都・愛知県西尾市
二〇〇四年八月 385×285
和紙と遊ぶ 切絵人 桜井敏彦





「秋雨の大仏殿」 東大寺・奈良公園

二〇〇二年六月 275×375

和紙と遊ぶ 切絵人 桜井敏彦



「仙道の石畳を散策く」 長野県木曾郡馬籠村

二〇〇三年六月 480×380

和紙と遊ぶ 切絵人 桜井敏彦



「智慧波羅蜜」 サンスクリット文字の般若心経

二〇〇三年五月 585×435

和紙と遊ぶ 切絵人 桜井敏彦





「鬼たちの宴会」^{うたげ} 御陳乗太鼓・石川県能登半島

二〇〇一年十二月 480×350

和紙と遊ぶ 切絵人 桜井敏彦



「蝉時雨の賛美歌を聞きながら」^{ゴスペル} 聖ヨハネ教会堂・犬山市明治村
二〇〇四年八月 290×400

和紙と遊ぶ 切絵人 桜井敏彦



和紙と遊ぶ

作者紹介

切絵人 桜井敏彦
全国切り絵作家協会会員
全国切り絵同好会会員



画歴

- 1948年 静岡県榛原郡榛原町に誕生
- 1974年 切り絵の独学を開始
- 1994年 東海市国際交流協会発行の会報デザインを担当
- 1995年 東海市文化祭工芸の部にて市長賞を受賞
- 1997年 中国湖南省長沙市にて個展を開催
- 1998年 東海市内で国際交流協会の会報原画展を開催
- 1999年 第3回全国切り絵はがきコンクールで入賞
- 2000年 半田市「ふるさと再発見絵画展」に入賞
・呉竹「花の絵てがみコンクール」に入賞
- 2002年 第11回「全国切り絵コンクール」に入賞
- 2003年 東海市北郵便局にて6回の個展を開催
・第7回切り絵はがきコンクールにて大賞を受賞
・「全国切り絵同好会」より講師の認定を受理
・西春日井郡新川町「ギャラリー桐子」に作品を出展
- 2004年 伊香保切り絵美術館の「東西作家展」に出展
・群馬県「日本切り絵百景館」の作家協会展に出展
・名古屋市、東海市に「全国切り絵同好会」支部結成
・交通新聞「日本の小京都シリーズ」に作品が掲載
・名古屋市東区の2会場にて個展開催
- 2005年 愛知県知多市内の美術館で初の展示即売会開催
・岐阜県大垣市「大垣共立銀行本店」で個展開催
・万博イベントでトルコの映画監督作品に友情出演